平成 26 年度

熊本市こころの健康センター所報

熊本市こころの健康センター

はじめに

大変遅くなりましたが、ここに平成 26 年度のこころの健康センターの活動のご報告ができますことを、関係者の皆様に深く感謝いたします。

当センターは、平成 24 年 4 月、熊本市の政令市移行に伴い設置され、まもなく 4 年を迎えようとしています。事業としましては精神保健福祉相談及び診療、人材育成・教育研修、普及啓発、関係機関への技術支援、自殺対策、依存症対策、社会復帰支援、ピアサポート事業、精神医療審査会等の精神障がい者の権利擁護、自立支援医療費及び精神保健福祉手帳の判定業務、ひきこもり支援センター（委託）を実施しております。

熊本市の自殺対策におきましては、精神科病院協会の協力による救急医療の確保、精神科救急情報センター、熊本県精神福祉協会のこころの電話、熊本いのちの電話、国立病院機構熊本医療センターを中心とした救急医療機関、消防、警察、行政（区役所、保健所、教育機関）との連携の取り組み、でんでん虫の会（ひとり暮らしを支えあう会）、相談支援事業所や地域包括支援センター、自死遺族の皆様の活動、ピアサポート等々、多方面の方々の日々のご努力が地域の力になっておりますことに心より感謝を申し上げます。当センターは実施する全事業が自殺対策であるという認識のもと、皆様と共に取り組みを進めていく所存でございます。

依存症の対策では、関係医療機関、保護観察所、保護司会、警察、当事者の自助グループ等の活動に支えていただいております。当センターでは、様々な依存の当事者ミーティングと家族教室を、県精神保健福祉センターでは、依存症回復プログラム、依存症者家族のための対応ハンドブックを利用したミーティングを実施し、相互に利用可能として皆様にご利用いただいております。

さて、近年の精神保健福祉の動きを見ますと、社会復帰、就労、自己実現の支援の流れが加速しはじめているのを感じます。当事者の語りの支援による自己決定の尊重、リカバリー志向の伝播、ピアサポート、WRAP 等の活動が相互に作用しているようにも感じます。当センターとしても、さらに当事者を中心にすえて、出来るだけ早く当事者の生活の場に家庭訪問をし、開かれた対話により家族間の調整や情報提供を試み、本人が自らの意思で治療や支援を選択できるための支援を目指しながら活動してまいりたいと思います。そして、精神障がい者の人権を擁護する行政機関として、その先にすべての人々の心の平安を見据えながら、皆様と共に歩みたいと思っております。

当事者の皆様、家族の皆様、関係機関の皆様へ感謝申し上げますと共に、いま一層のご指導とご鞭撻をお願いしまして、はじめの言葉といたします。

平成 28 年 2 月

熊本市こころの健康センター所長　田上　こずえ

目次

Ⅰ　こころの健康センターの概要
1　沿革…… 1
2　業務概要…… 1
3　施設概要…… 1
4　組織…… 2
5　歳入及び歳出…… 2

Ⅱ　こころの健康センター業務実績
1　企画・立案…… 3

2　精神保健福祉相談及び診療
(1)　こころの健康相談…… 4
(2)　医師の診断による分類…… 7

3　人材育成・教育研修…… 8
(1)　精神保健福祉担当者研修会…… 9
(2)　思春期精神保健福祉担当者研修会…… 9
(3)　アルコール依存症研修会…… 10
(4)　ゲートキーパー養成講座…… 10
(5)　自殺予防研修会…… 10
(6)　精神障がい者就労支援ネットワーク連絡会…… 11
(7)　九州ブロック精神保健福祉センター所長会及び研究協議会…… 11

4　普及啓発…… 12
(1)　ひきこもり家族の集い…… 13
(2)　依存症家族教室…… 13
(3)　依存症講演会（こころの健康づくり講演会・家族教室）…… 13
(4)　依存症当事者グループミーティング…… 14
(5)　WRAP（元気回復行動プラン）集中クラス…… 14
(6)　自死遺族グループミーティング…… 14
(7)　自死遺族支援を考える講演会…… 14
(8)　精神保健福祉ボランティア養成講座…… 15
(9)　ピアサポート講座…… 16～17
(10)　ピアサポート講演会…… 18
(11)　精神障がい者就労支援講演会…… 18
(12)　図書・ビデオ・DVD 貸し出し…… 18
(13)　パンフレット等の普及啓発資料の作成・配布…… 18

５　組織育成 19

６　関係機関への技術支援 21

７　自殺・うつ病対策
(1)　くらしとこころの悩みの相談会 23
(2)　自死遺族グループミーティング（再掲） 23
(3)　自死遺族支援を考える講演会（再掲） 23
(4)　ゲートキーパー養成講座（再掲） 24
(5)　自殺予防研修会（再掲） 24

８　精神障がい者の社会復帰支援
(1)　就労準備デイ・ケア 25
認知機能検査結果
(2)　デイ・ケア修了生の集い・就労ミーティング 28
(3)　精神障がい者就労支援講演会（再掲） 28
(4)　精神障がい者就労支援ネットワーク連絡会（再掲） 28
(5)　ピアサポート相談 29

９　ひきこもり対策推進事業 30

１０　調査研究 36

１１　自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定 39

１２　精神医療審査会の審査に関する事務 41

Ⅰ熊本市こころの健康センターの概要

熊本市こころの健康センターは、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律第６条第１項に規定される精神保健福祉センターとして設置されている。

１　沿革

平成２４年　４月　１日	熊本市が政令指定都市に移行 熊本市こころの健康センター開設
平成２４年　５月　１日	熊本市こころの健康センター診療所認可
平成２４年１０月　２日	就労準備デイ･ケア（精神科ショート･ケア）開始
平成２６年１０月　１日	熊本市ひきこもり支援センター「りんく」設置（業務委託開始）

２　業務概要

熊本市こころの健康センターでは、以下の業務を行っている。

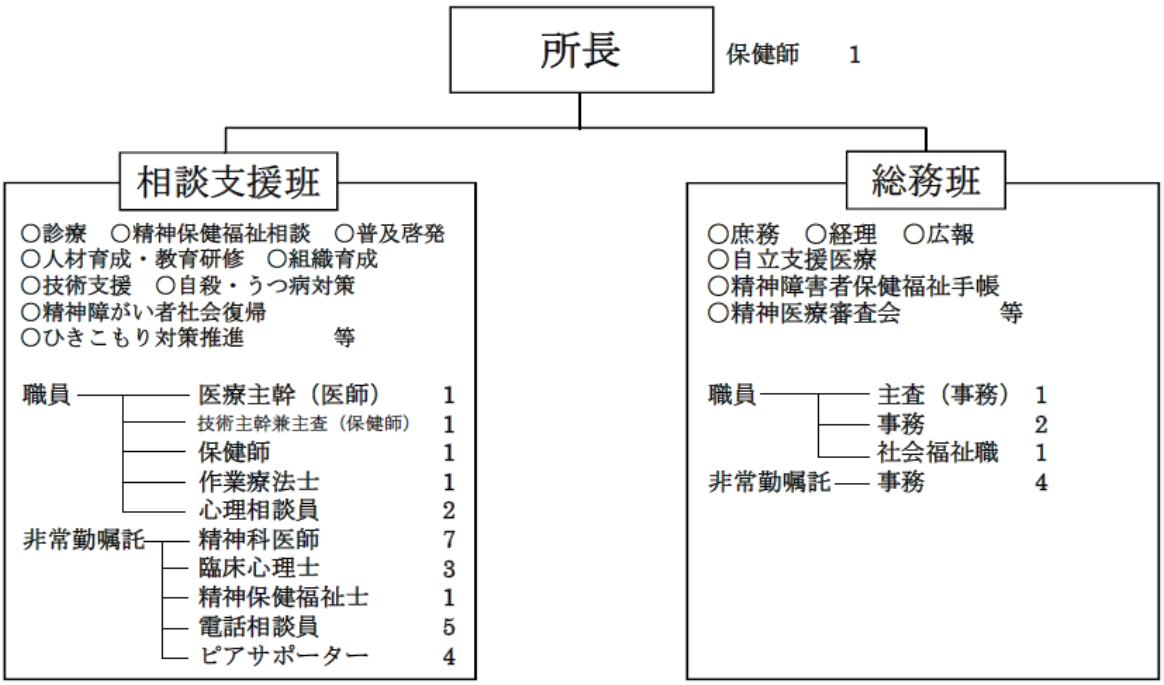
(1)企画・立案
(2)精神保健福祉相談及び診療
(3)人材育成・教育研修
(4)普及啓発
(5)組織育成
(6)関係機関への技術支援
(7)自殺・うつ病対策
(8)精神障がい者の社会復帰支援
(9)ひきこもり対策推進事業
(10)調査研究
(11)自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定
(12)精神医療審査会の審査に関する事務

３　施設概要

所在地	〒862-0971　熊本市中央区大江５丁目１番１号 熊本市総合保健福祉センター（ウェルパルくまもと）３階	
面積	474.53　㎡	
電話番号	代表番号	096－366－1171
	ＦＡＸ	096－366－1173
	こころの健康相談	096－362－8100
	熊本市精神医療審査会	096－366－1222

4　組織　（平成 27 年 3 月現在）

熊本市こころの健康センター組織図



5　歳入及び歳出

（１）歳入　10,681,552 円

国庫補助金	8,212,862 円
使用料	2,468,690 円
手数料	0 円

（２）歳出　44,422,285 円

款）衛生費　項）保健衛生費　目）精神保健福祉費

（節別内訳）

節	金額	節	金額
報酬	19,342,274 円	医薬材料費	0 円
共済費	1,194,629 円	役務費	6,732,908 円
報償費	1,025,400 円	委託料	10,711,693 円
普通旅費	1,001,805 円	使用料	205,087 円
特別旅費	292,184 円	備品購入費	1,619,255 円
一般需用費	2,037,393 円	負担金補助	195,880 円
食糧費	29,742 円	補償補填	0 円
燃料光熱水費	34,035 円	公課費	0 円

Ⅱ　熊本市こころの健康センター業務実績

１　企画・立案

地域精神保健福祉を推進するため、精神保健福祉の専門的な立場から、関係機関及び熊本市の精神保健福祉関係部署に対し、精神保健福祉に関する提案、意見具申等を行っている。

（１）熊本市精神保健福祉審議会（行政関係職員として所長が参加）

精神保健福祉に関する事項を調査審議する。

精神保健及び精神障がい者の福祉に関する本市の取り組みについての意見や法第 19 条の 9 第 2 項規定による指定病院の指定の取り消しの際の意見を聴取する。

期日	協議内容	参加委員数
H27.2.2	○精神疾患者の現状について ○事業の実施状況について ○新たな取り組み等について	9 人

（２）熊本県自殺対策連絡協議会

熊本県における自殺者数の減少を図るため、県内の関係機関・団体が連携し、自殺対策を総合的に推進することを目的として、熊本県が設置しているものであり、医療・保健・福祉関係委員として参加している。

期日	協議内容
H26.7.30	○熊本県の自殺の概要について ○平成 26 年度における各関係機関の取組みについて ○自殺予防週間の取組みについて ○その他
H27.1.30	○平成 26 年中の自殺の概要について ○熊本県自殺対策行動計画の取組み状況について ○自殺対策強化月間（3 月）の取組みについて ○その他

（３）熊本市自殺対策連絡協議会（行政関係として当センターから複数名参加）

熊本市における自殺者数の減少を図るため、市内の関係機関・団体が連携し、自殺対策を総合的に推進することを目的とする。

期日	協議内容
H26.8.11 H27.2.23	○自殺者の現状について ○熊本市の取り組みについて ○各関係機関の取り組みについて　　等

２　精神保健福祉相談（こころの健康相談）及び診療

当センターでは、区役所及びその他関係機関の複雑困難事例、医療機関及び相談機関等につながっていない困難事例等の相談対応を実施している。また、これら以外の相談事例についても、必要に応じて対応している。

相談体制は来所相談と電話相談で対応しているが、来所相談は事前予約を要するとしている。また、ひきこもりで通所が困難である事例等は、必要に応じて訪問を行っている。来所相談はセンター職員及び非常勤職員で対応し、電話相談は２名の電話相談専属の非常勤職員で対応している。電話相談については、専用回線を設置し、平日の９：00～16：00 で、こころの悩み等の幅広い相談に対応している。

また、当センターでは、診療所としての許認可を受けて、通常の医療機関につながっていない困難事例等について診療を行っている。原則として継続診療とはせず、適切な医療機関を紹介している。

（診療の体制は、原則として予約制で、精神科医師８名により対応している。）

（１）こころの健康相談（全体）

１）相談件数（実人数）

	来所相談		電話相談		訪問	
	延件数	実人数	延件数	新規	延件数	実人数
老人精神保健	18	10	130	83	9	6
社会復帰	444	63	281	24	70	19
アルコール	24	17	160	63	4	1
薬物	3	3	32	17		
ギャンブル	31	23	104	59		
思春期	72	40	144	92	3	3
心の健康づくり	272	135	1390	579	30	9
うつ・うつ状態	42	32	223	125	1	1
摂食障害			12	7		
その他	277	132	4079	492	20	10
計	1183	455	6555	1541	137	49

（相談延件数の再掲分件数）

	来所相談		電話相談		訪問	
	延件数	実人数	延件数	新規	延件数	実人数
ひきこもり	253	53	162	48	33	13
発達障がい	126	44	141	39	4	4
自殺関連	44	18	355	41	8	6
自殺者の遺族（再掲）	17	10	20	4		
犯罪被害			4	1		
災害	1	1	3	1		

２）男女別件数

	来所相談			電話相談			訪問		
	実人数（H26 新規）	継続	延件数	新規	継続	延件数	実人数（H26 新規）	継続	延件数
男	230(186)	448	678	716	1851	2567	34(18)	73	107
女	223(188)	280	503	798	3160	3958	15(10)	15	30
不詳	2(2)		2	27	3	30			
計	455(376)	728	1183	1541	5014	6555	49（28）	88	137

（２）平成 26 年度の新規相談受付者の状況

１）来所相談

（ア）年齢別

	6～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	不詳	計
男	1	8	12	37	42	38	10	15	7	2	14	186
女	3	7	14	34	37	36	12	16	13	4	12	188
不詳		1									1	2
計	4	16	26	71	79	74	22	31	20	6	27	376

（イ）相談者内訳

	本人	本人以外								計
		父	母	配偶者	子	兄弟姉妹	祖父母	親戚	その他	
男	94	18	45	15	2	3	2	3	4	186
女	120	9	35	6	4	6	1	2	5	188
不詳			2							2
計	214	27	82	21	6	9	3	5	9	376

（ウ）主たる相談内容内訳

	A精神疾患・障害の相談	B依存・食行動の問題	C思春期相談	D家族関係の問題	E対人関係の問題	F心の健康の問題	G福祉・社会復帰等の問題	Zその他	計
男	58	31	10	16	8	22	39	2	186
女	61	12	9	23	7	41	33	2	188
不詳	2								2
計	121	43	19	39	15	63	72	4	376

（エ）受付経路

	関係機関紹介	市　政だより	チラシ・パンフレット	インターネット	知人の紹　介	知っていた	その他	不詳	計
男	79	14	2	26	14	31	13	7	186
女	80	24	4	19	22	19	4	16	188
不詳					1	1			2
計	159	38	6	45	37	51	17	23	376

（関係機関紹介の再掲分件数）

	保 健 所	区役所	福 祉事務所	医 療施 設	介護老人保健施　設	障害者支　援施　設	社会福祉施設	教育関係機関	その他	計
男	7	12	1	20		7	2	2	28	79
女	1	14	1	25		1	1	6	31	80
計	8	26	2	45		8	3	8	59	159

２）電話相談

（ア）年齢別

	0～5	6～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	不詳	計
男		4	17	55	121	121	114	77	36	33	13	125	716
女	1	8	25	39	99	126	140	86	73	48	22	131	798
不詳		2		2	1	1			1			20	27
計	1	14	42	96	221	248	254	163	110	81	35	276	1541

（イ）相談者内訳

	本人	本　人　以　外								計
		父	母	配偶者	子	兄弟姉妹	祖父母	親戚	その他	
男	381	43	138	53	15	25	7	14	40	716
女	499	24	116	29	29	19	4	17	61	798
不詳	4	1	5			1			16	27
計	884	68	259	82	44	45	11	31	117	1541

（ウ）主たる相談内容内訳

	A精神疾患・障害の相談	B依存・食行動の問題	C思春期相談	D家族関係の問題	E対人関係の問題	F心の健康の問題	G福祉・社会復帰等の問題	Zその他	計
男	182	116	29	68	46	168	99	8	716
女	200	34	32	133	61	241	89	8	798
不詳	7	3	2	1	1	5	8		27
計	389	153	63	202	108	414	196	16	1541

（エ）受付経路

	関係機関紹介	市　政だより	チラシ・パンフレット	インターネット	知人の紹　介	知っていた	その他	不詳	計
男	240	54	65	137	50	34	43	93	716
女	261	56	67	159	41	28	91	95	798
不詳	6	6	1	5		4		5	27
計	507	116	133	301	91	66	134	193	1541

（関係機関紹介の再掲分件数）

	保健所	区役所	福　祉事務所	医 療施 設	介護老人保健施　設	障害者支　援施　設	社会福祉施設	教育関係機関	その他	計
男	6	40	2	97	1	3	1	5	85	240
女	4	41	8	94	1	8		12	93	261
不詳				1				3	2	6
計	10	81	10	192	2	11	1	20	180	507

（２）医師の診断による分類（診療のみ）

Ｆコード	診断分類	実人数	延件数
Ｆ０	病状性を含む器質性精神障害	3	3
Ｆ１	精神作用物質による精神および行動の障害	2	2
Ｆ２	統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	34	529
Ｆ３	気分（感情）障害	10	78
Ｆ４	神経症性障害、ストレス関連および身体表現性障害	10	10
Ｆ５	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	3	3
Ｆ６	成人の人格および行動の障害	2	2
Ｆ７	精神遅滞		
Ｆ８	心理的発達の障害	5	46
Ｆ９	小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害、特定不能の精神障害		
その他	その他		
計		69	673

３　人材育成・教育研修

当センターでは、地域の精神保健福祉活動の推進のために、研修会及び講演会を開催している。精神保健福祉に携わる職員等に対し専門的知識及び技術の習得を目的とし、様々な目的に応じて参加できるように企画している。

	研修会等	
	件数	参加延人数
老人精神保健		
社会復帰	2	18
アルコール	1	57
薬物		
思春期	4	231
心の健康づくり		
ひきこもり		
自殺関連	3	168
犯罪被害		
その他	3	130
計	13	604

	参加延人数（所属別）
保健所	5
区役所	97
福祉事務所	3
医療機関	107
介護老人保健施設	15
障害者支援施設	4
社会福祉施設	5
教育関係機関	189
その他	179
計	604

（１）精神保健福祉担当者研修会

精神保健福祉業務に従事する保健所及び区役所職員等が、必要な専門的知識及び技術を習得することで、地域精神保健福祉活動の推進を図ることを目的に実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.5.30	○精神保健福祉法の改正及び措置入院等の業務について ○最近の精神保健福祉の動向 ○精神疾患の理解と対応 ○こころの健康センター業務について ○障害者総合支援法と障害福祉サービスについて ○ピアサポーター活動紹介及び体験談 ○相談面接の基礎 ○情報交換会	熊本市職員 （精神保健福祉室職員、区役所福祉課職員、こころの健康センター職員）	65 人

（２）思春期精神保健福祉担当者研修会

教育関係者及び精神保健福祉業務に従事する者が、思春期における「発達障がい」や「自殺予防」等の課題への理解を深め、地域精神保健福祉活動の推進を図ることを目的に実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.8.6	講話「最近の児童青年期精神科医療」 講話「学齢期から成人期へ－発達障害をもつ生徒の育ちと学校・家庭環境」 体験談「発達障がいの当事者の立場から」	向陽台病院理事長 横田　周三 氏 はっとり心療クリニック 服部　陵子 氏 熊本市こころの健康センター ピアサポーター	210 人

期日	内容	講師	参加人数
H26.6.4	児童・精神症例検討会	はっとり心療クリニック院長 服部　陵子 氏	9 人
H26.10.7	児童・精神症例検討会	はっとり心療クリニック院長 服部　陵子 氏	5 人
H27.2.28	児童・精神症例検討会	はっとり心療クリニック院長 服部　陵子 氏	7 人

（３）アルコール依存症研修会

精神保健福祉業務に従事する者がアルコール関連問題に対する理解を深め、依存症への適切な対応の充実を図ることを目的に実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.3.6	講話「アルコール健康障害対策基本法の目指すもの～アルコール関連問題への理解と対応～」	ひがし布施クリニック　院長 辻本　士郎 氏	57 人

（４）ゲートキーパー養成講座

自殺を防ぐために、地域支援者等が自殺危機介入スキルの習得することを目的とした講座等を実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.12.8, 12.9	自殺を考える人、自殺を計画する人のサインを見逃さず、危険性をはかり、安全計画をたてた上で、専門家等へつなぐ一連の対応について、実際の場面でのスキルを身につけるためのロールプレイ型実践研修	熊本市こころの健康センター職員	38 人

（５）自殺予防研修会

教育関係者、医療機関、相談支援事業所、熊本市保健福祉関係者、精神保健福祉に関する業務従事者等を対象に、青少年の自殺予防に焦点を当てた研修を実施。青少年の自殺の実態や自傷行為の理解やその対応についてや自殺予防教育の実践を学ぶことにより、青少年の自殺予防対策の推進を図る。

期日	内容	講師	参加人数
H26.8.5	講話「青少年の自殺予防」 講話「自殺予防教育～実践的な取り組みから～」	筑波大学医学医療系災害精神支援学 今村　芳博　氏 四天王寺学園小学校 阪中　順子　氏	130 人

（６） 精神障がい者就労支援ネットワーク連絡会

当センターで実施する精神障がい者の就労支援に係る事業の推進を図り、また、関係機関との連携による精神障がい者の就労支援の促進を図ることを目的として実施している。

期日	内容	委員
H26.7.23	○こころの健康センター就労準備デイ・ケア報告 ○事例検討 ○意見交換	9 人
H27.3.4	○こころの健康センター就労準備デイ・ケア報告 ○事例検討 ○意見交換	9 人

（７）九州ブロック精神保健福祉センター所長会及び研究協議会

地域の精神保健福祉の向上のために、九州各県及び指定都市の精神保健福祉センター事業及び運営の向上、連携を目的として開催している。平成 26 年度は開催都市が熊本市だったため、熊本市が主催した。

期日	内容	参加者
H27.2.5	○研究協議会 ・各センターの事業運営に関する協議、意見交換 ○センター長会議	35 人

期日	内容	講師	参加者
H27.2.6	○講演「認知症疾患医療センターを中心とした熊本県における認知症連携の取り組み」 ○視察「どぎゃんです会」（熊本大学医学部附属病院で行われている認知症の方とそのご家族を対象としたデイケア）	熊本大学院生命科学研究部神経精神医学分野 教授　　池田　学 氏	30 人

４　普及啓発

当センターでは、精神保健福祉に関する知識、精神障がいについての正しい知識、精神障がい者の権利擁護等について、普及啓発を行っている。

	普及啓発	
	件数	参加人数
老人精神保健		
社会復帰	42	499
アルコール・薬物	48	340
思春期		
心の健康づくり	5	42
ひきこもり	6	47
自殺関連	8	45
犯罪被害		
その他		
計	109	973

（再掲）

	件数	参加人数
地域住民への講演、交流会	1	49
薬物関連問題の再掲	1	49
精神障害者（家族等）に対する教室等	103	882
薬物関連問題の再掲	47	291
精神ボランティア育成	5	42

（１）ひきこもり家族の集い

ひきこもりで困っている家族が、日頃の悩みの分かち合いや学習会・情報交換を通じて、本人への関わり方や支援を考える機会を提供することを目的として実施している。

期日	回数	内容	参加人数
毎月第２水曜日 13:30～15:30	6 回	「ひきこもり」について、家族のコミュニケーション、回復者からのお話、意見交換会など	実 21 人 延 47 人

※平成 26 年 10 月から熊本市ひきこもり支援センター「りんく」が開設したため、10 月以降はひきこもり対策推進事業で計上している。

（２）依存症家族教室

アルコールや薬物・ギャンブルなどの依存症に伴う問題に対応するために、家族が学びあい、共感と癒しを得る機会を提供する。

期日	回数	内容	参加人数
毎月第1火曜日 18:30～20:30 毎月第3火曜日 13:30～15:30	23 回	「依存症」についての講話、回復者からの体験談、家族の学習会、コミュニケーションについてなど	延 190 人

（３）依存症講演会（こころの健康づくり講演会・家族教室）

依存症で悩む家族が家族関係について正しい知識を習得し、問題行動への対応を学ぶための機会として実施している。また、広く市民を対象とし、「心の健康づくり」として依存症に関わる啓発を行っている。

期日	内容	講師	参加人数
H26.11.23	講演 「薬物依存症の理解と回復への支援」 薬物依存症回復者による体験談 「病気の苦しみと回復の喜び」	新阿武山クリニック　社会学博士・社会福祉士・精神保健福祉士 西川　京子 氏 大分県の回復者	49 人
	家族教室 「アディクションをめぐる質問と回答」	同上	36 人

（４）依存症当事者グループミーティング

依存症当事者を対象とし、依存症の回復プログラムを用いて、やめたくても自分でもコントロールできない様々な行動を変えていくことを目的としたグループミーティングを行っている。

期日	回数	内容	講師	参加人数
毎月 第2･4木曜日 14:00～16:00	23回	12 ステップを用いたグループミーティング	相談支援センター 熊本ダルク施設長 田邊　忠司 氏	実5人 延63人

（５）WRAP（元気回復行動プラン）集中クラス

精神障がい者が、苦労や困難に直面した際に WRAP（元気回復行動プラン）を利用して、元気を回復する、または元気を保つための方法を学ぶ機会を提供することを目的として実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.8.28～8.29	WRAP(元気回復行動プラン)	らっぷらんた～熊本　WRAP ファシリテーター　3名	実11人 延22人

（６）自死遺族グループミーティング

大切な人を自死（自殺）で亡くした者が悩みや苦しみを話せる機会を提供することを目的として実施している。

期日	回数	内容	参加人数
偶数月 第3木曜日 14:00～16:00	7回	フリートーク及び相談	実9人 延11人

（７）自死遺族支援を考える講演会

市民及び支援者を対象に、自死遺族への理解を深め、適切な対応について学ぶことにより、自死遺族支援の推進を図る。

期日	内容	講師	参加人数
H26.9.26	講話「大切な人を自殺で亡くすとは～自殺の現状と活動を通して～」	ＮＰＯ法人自死遺族支援ネットワークＲｅ 代表　山口　和浩 氏	34人

（８）精神保健福祉ボランティア養成講座

精神障がい者等が安定した地域生活を送るために、地域住民に対して精神障がいの正しい理解の普及を図り、地域で精神障がい者を支える精神保健福祉ボランティアの育成を目的として、ボランティア養成講座及び修了生の集いを開催している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.10.10 ～11.7 全５回	①講話「精神保健の現状と課題」 「ボランティア活動のスタートにあたって」 ②講話「精神障がい者が地域生活を継続するために ～ 就労移行支援・就労継続支援事業所・地域活動支援センターの現状とボランティアの役割について ～」 講話「話の聴き方」 ③障害福祉サービス事業所・地域生活支援センターでのボランティア体験実習 ④精神障がい者スポレク大会「ふれあいピック」参加 ⑤講話「障がい者とともに生きる地域づくり～当事者の声をきこう～」	熊本市こころの健康センター医師 熊本市こころの健康センター保健師 熊本きぼう福祉センター 池田　伸二 氏 熊本市こころの健康センター心理相談員 各施設職員 熊本市こころの健康センターピアサポーター	実９人 延 42 人

（９）ピアサポート講座

精神障がい者が、その経験を生かし、理解と共感を持って仲間をサポートしていけるように知識や情報を知る機会を提供することを目的に実施している。また、講座修了者等を対象にピアサポートスキルの向上やさらなる知識の習得に向けたフォロー研修の機会を提供している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.7.28	第１回 ●「リカバリーについて」 ●「ピアサポートとは？」 ●グループワーク	第１回 熊本市こころの健康センター職員	第１回 17 人
H26.8.4	第２回 ●熊本市におけるピアサポートの紹介～ピアサポートの実践報告とピアへの思い～ ①「こころの健康センターにおけるピアサポート活動」 ②「ピアサポートくまもとにおけるピアサポート活動」 ●「精神障がい者地域移行・地域定着支援事業におけるピアサポーターの役割」 ●グループワーク	第２回 ①熊本市こころの健康センター 社会復帰支援ピアサポーター2 名 ②ピアサポートくまもと ピアサポーター2 名 熊本市障がい保健福祉課 精神保健福祉室職員	第２回 19 人
H26.8.11	第３回 ●精神障がいピアサポート講演会 講演「ピアサポート・ピアスタッフ・経験をいかす仕事」	第３回 NPO 法人地域精神保健福祉機構　共同代表 宇田川 健　氏 聖学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 相川 章子　氏	第３回 108 人
H26.8.18	第４回 ●「私の体験談、ピアサポートを語る」 ●「ピアサポートするうえで大切なこと」 ●グループワーク	第４回 ピア２名 熊本市こころの健康センター職員	第４回 18 人

ピアサポートの集い（フォロー研修）

期日	内容	講師	参加人数
H26.6.6	第１回 ●「リカバリーに大切なことーストレングスを知るー」 ●「円滑なピアサポートに向けて～アサーションを一緒に考えよう～」	第１回 熊本市こころの健康センター職員 熊本市こころの健康センター社会復帰支援ピアサポーター３名	11 人
H26.11.14	第２回 ●精神障がいピアサポート専門員養成研修参加報告 ●「ピアサポートに必要なコミュニケーションスキルについて」	第２回 熊本市こころの健康センター社会復帰支援ピアサポーター２名 熊本市こころの健康センター社会復帰支援ピアサポーター４名	16 人
H27.3.9	第３回 ●「ピアサポートを考える―ピアだからできること―」 ●ピア自身の力を信じるピアサポート ●「コミュニケーションツールとしてのアドバイス」	第３回 熊本市こころの健康センター職員 熊本市こころの健康センター社会復帰支援ピアサポーター２名 熊本市こころの健康センター社会復帰支援ピアサポーター２名	16 人

（１０）ピアサポート講演会

ピアサポート講座受講生、講座修了者及び市民に向けて他都市で行われているピアサポート活動を紹介し、ピアサポートの普及及びリカバリーの促進を図ることを目的として実施している。（ピアサポート講座の第３回としても開催している。）

期日	内容	講師	参加人数
H26.8.11	精神障がいピアサポート講演会 講演「ピアサポート・ピアスタッフ・経験をいかす仕事」	NPO 法人地域精神保健福祉機構 共同代表 宇田川　健 氏 聖学院大学 人間福祉学部 人間福祉学科 教授 相川　章子 氏	108 人

（１１）精神障がい者就労支援講演会

精神障がい者に対して、就労状況や支援についての情報を提供し、就労支援の推進を図ることを目的として実施している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.11.19	講演「精神障がいのある方の就労・就労継続していくために」	Office 夢風舎 土屋　徹 氏	146 人

（１２）図書・ビデオ・DVD 貸し出し

精神保健福祉の知識を幅広く普及するため、関係機関・関係団体向けに所蔵の図書、ビデオ及び DVD の貸し出しを行っている。

種類	件数
図書	48 件
ビデオ・DVD	8 件

（１３）パンフレット等の普及啓発資料の作成・配布

種類	名称
パンフレット	「うつ病のこと、知っていますか？」 「統合失調症のこと、知っていますか？」 「思春期」 「ひきこもりってなんだろう？」
リーフレット	「熊本市こころの健康センター」 「大切な人を亡くされた方へ」 「依存症かもしれません」 「就労準備デイ・ケア」

５　組織育成

当センターでは、地域精神保健福祉活動の推進のために、地域住民による組織的活動に協力するとともに、組織の育成について、専門的立場からの助言、協力等を行っている。

（１）支援件数

	組織育成（支援件数）
老人精神保健	
社会復帰	26
アルコール・薬物	24
思春期	
心の健康づくり	3
ひきこもり	3
自殺関連	6
犯罪被害	
その他	11
計	73

	組　織　育　成				
	患者会	家族会	断酒会	その他	計
支援件数	23	14	2	34	73

（２）支援内容

１）精神障がい者当事者グループ

関係組織	回数	育成・支援内容
地域移行支援ピアサポーター（ピアサポートくまもと）	14 回	地域移行支援ピアサポーター連絡会打ち合わせ・意見交換会参加等
らっぷらんた一熊本	7 回	WRAP 打ち合わせ参加等
NPO 法人熊本 DARC	2 回	NPO 法人熊本 DARC 総会・NPO 法人熊本 DARC を支援する会理事会会議参加等

２）家族会

関係組織	回数	育成・支援内容
熊本市心の障がい者家族会（むつみ会）	10 回	家族教室参加・運営支援・打ち合わせ
熊本県精神障害者家族会	１回	熊本県精神障害者家族大会参加
若者支援者連絡会	３回	若者支援者連絡会「ひきこもりを考える講演会」打ち合わせ等参加

３）断酒会

関係組織	回数	育成・支援内容
NPO 法人断酒会熊本支部	２回	九州ブロック大会参加・打ち合わせ等

４）ボランティアグループ、その他

関係組織	回数	育成・支援内容
精神保健福祉ボランティア修了生のつどい	３回	学習会・情報交換会
熊本アディクションフォーラム実行委員会	７回	実行委員会参加・熊本アディクションフォーラム参加等
熊本アルコール関連問題学会	13 回	運営委員会・理事会・九州アルコール関連問題学会参加等
熊本救急医療自傷・自殺問題対策協議会	６回	熊本救急医療自傷・自殺問題対策協議会、自死遺族ケアについての多職種ワーキング・グループ会議参加等
熊本精神科リハビリテーション研究会	５回	運営会議・理事会・総会・研究会参加等

６　関係機関への技術支援

当センターでは、地域精神保健福祉活動の推進のため、保健所、区役所及びその他関係機関に対し、専門的立場から技術支援を行なっている。

（１）技術指導・援助延件数

	技術指導・援助												
	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	その他	計
保健所	7	33	6	8	1	2	22	3	5	2		40	129
区役所	54	15	17	4	7	30	90	14	12			146	389
福祉事務所	55	3			1		3	1	3			13	79
医療施設	15	18	2	2	1	8	6	10	11			59	132
介護老人保健施設	2						3		2				7
障害者支援施設		64	1				5	8	1			35	114
社会福祉施設	5		2	1			2	1				1	12
教育関係施設			2			24	7	4	1			10	48
その他	24	25	9	11	8	71	52	92	36	2		292	622
計	162	158	39	26	18	135	190	133	71	4		596	1532

（２）個別ケース処遇に関する技術指導・援助　延件数（再掲）

	技術指導・援助（個別ケース処遇検討会延件数）												
	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	その他	計
保健所	3	2	5	2	1	1	11	3	3			31	62
区役所	35	1	17	2	7	27	79	14	12			130	324
福祉事務所	1	2			1		3		3			10	20
医療施設	10	12	2	1	1	8	6	10	11			56	117
介護老人保健施設	2								2				4
障害者支援施設	0	14	1				3	8	1			34	61
社会福祉施設	5		1	1			2	1				1	11
教育関係施設						23	5	3	1			4	36
その他	16	8	4	3	8	71	32	87	32	2		109	372
計	72	39	30	9	18	130	141	126	65	2		375	1007

（３）個別ケース処遇に関する検討会議　延件数（再掲）

	技術指導・援助（個別ケース処遇検討会議参加件数）												
	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	その他	計
保健所												1	1
区役所	6					2	1					11	20
福祉事務所	54												54
医療施設		1										2	3
介護老人保健施設													
障害者支援施設		43										1	44
社会福祉施設													
教育関係施設						1		1					2
その他		1										169	170
計	60	45				3	1	1				184	294

（４）関係機関事業に関する技術支援・援助　延件数（再掲）

	技術指導・援助（個別ケース処遇検討会議参加件数）												
	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	その他	計
保健所	4	31	1	6		1	11		2	2		8	66
区役所	13	14		2		1	10					5	45
福祉事務所		1						1				3	5
医療施設	5	5		1								1	12
介護老人保健施設							3						3
障害者支援施設		7					2						9
社会福祉施設			1										1
教育関係施設			2				2					6	10
その他	8	16	5	8			20	5	4			14	80
計	30	74	9	17		2	48	6	6	2		37	231

７　自殺・うつ病対策

日本の自殺者数が減少しているように、熊本市でも減少こそしているものの、いまだ100名を超える方が亡くなっている現状がある。熊本市の自殺対策の体制は、自殺対策の主管課である障がい保健福祉課（精神保健福祉室）が自殺対策連絡協議会や啓発活動等を行い、こころの健康センターが包括相談会の開催、ゲートキーパー養成講座・自殺予防研修会等の教育研修、自死遺族グループミーティング及びリーフレット・パネル作成等の普及啓発を通して、自殺の防止を図っている。

（１）くらしとこころの悩みの相談会（包括相談会）

自殺の社会的要因である、失業、倒産、多重債務問題等に対する生活相談と、こころの健康に関する相談を併せて行い、抱えている問題の解決を図る機会を提供することを目的として実施する。

相談内容・職種 / 期日		多重債務等の法律及び生活に関する相談件数	病気・こころの健康に関する相談件数		その他（受付対応）	合計（実人数）
		弁護士	精神科医師	臨床心理士		
H26		29	31	16	2	78(59人)
再掲	6/26	4	9	4	2	19(12人)
	9/16	8	10	4		22(17人)
	12/15	6	4	1		11(8人)
	3/13	11	8	7		26(22人)

（２）自死遺族グループミーティング（再掲）

期日	回数	内容	参加人数
偶数月 第3木曜日 14:00～16:00	7回	フリートーク及び相談	延 11人

（３）自死遺族支援を考える講演会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H26.9.26	講話「大切な人を自殺で亡くすとは～自殺の現状と活動を通して～」	ＮＰＯ法人自死遺族支援ネットワークＲｅ 代表　山口　和浩　氏	34人

（４）ゲートキーパー養成講座（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H26.12.8, 12.9	自殺を考える人、自殺を計画する人のサインを見逃さず、危険性をはかり、安全計画をたてた上で、専門家等へつなぐ一連の対応について、実際の場面でのスキルを身につけるためのロールプレイ型実践研修	熊本市こころの健康センター職員	38 人

期日	内容	講師	参加人数
H26.8.18	地域看護学実習の大学生に向けて、ゲートキーパーについて講話・相談機関の紹介	熊本市こころの健康センター職員	9 人
H26.10.6	医師臨床研修実習内にて、自殺対策事業説明・ゲートキーパーについて講話	熊本市こころの健康センター職員	3 人
H26.10.28	作業療法士を目指す専門学校生の実習にて、ゲートキーパーについての講話・相談機関の紹介	熊本市こころの健康センター職員	2 人
H26.11.4	庁内専門職員向けにゲートキーパーについての講話	熊本市こころの健康センター職員	7 人
H27.2.19	医療・介護サービス事業所ネットワーク連絡会にて、ストレスマネジメント及びゲートキーパーについての講話	熊本市こころの健康センター職員	65 人

（５）自殺予防研修会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H26.8.5	講話「青少年の自殺予防」 講話「自殺予防教育～実践的な取り組みから～」	筑波大学医学医療系災害精神支援学 今村　芳博　氏 四天王寺学園小学校 阪中　順子　氏	130 人

８　精神障がい者の社会復帰支援

精神障がい者のピアサポート、就労支援関係機関と連携し就労支援を行なうことにより、精神障がい者の社会復帰を促進している。

（１）就労準備デイ・ケア

統合失調症等の方を対象に認知機能リハビリテーションや自己管理プログラム等を実施し、就労支援関係機関と連携を図りながら一般就労への促進を図ることを目的として実施している。また就労支援としてデイ・ケア中や終了後も就職活動の支援や就職後のフォロー等も継続して実施している。

＜対 象 者＞　精神科医療機関に通院している統合失調症者等で、主治医がデイ・ケアの利用を必要と認める 15 歳以上の者。定員は 20 名。

＜実 施 日＞　週 2 日（毎週火曜日・木曜日）

＜実施時間＞　9 時～12 時（3 時間）

＜実施期間＞　6 ヶ月（4 月・10 月に開始）※更新有 最長 1 年まで

＜利 用 料＞　有料（健康保険適用　自立支援医療費制度利用可）

＜参加人数＞

期日	参加人数
第 4 期 H26.4.8～H26.9.18（全 45 回）	第 4 期 実 14 人　延 369 人
第 5 期 H26.10.7～H26.3.26（全 47 回）	第 5 期 実 10 人　延 240 人

＜プログラム詳細＞

プログラム	内容
認知機能リハビリテーション	「注意」「記憶」「遂行機能」等の認知機能の改善や自己理解の促進、生活・仕事と認知機能とのブリッジングを目的に、パソコンソフトCOGPACKを使用したトレーニング及び振り返りミーティング「言語グループ」を実施。
自己管理プログラム	自分自身に目を向け、心身の状態に応じて元気を保つ、また元気を取り戻していくための方法について、WRAPを活用して、意見を出し合いながら考え、整理していくことを目的とした自己管理プログラムを実施。
心理教育	自分自身の病気や障がいの理解を深め、上手に付き合いながら生活・仕事をしていくために、「病気の理解」「服薬管理」「精神障がいの特性」等の心理教育を実施。

生活・就労プログラム	社会資源についてのプログラムや、人間関係を円滑にし、働き続けるために役立つ「コミュニケーション」、「ビジネスマナー」、さらに“働く”について考える「就労ミーティング」を実施。
就職準備プログラム	自分に適した働き方を考え、整理する「就労希望条件の整理」や、企業への応募時に必要となる履歴書の見本を作成する「履歴書作成練習」、また面接場面を想定した実践的に練習する「面接練習」を実施。
働くための情報取得	働くために役立つ情報を学び、安心して就職活動や就労継続ができるよう、ハローワークへの求人検索や、障がい者就業・生活支援センター、障害者職業センター等の就労支援機関による就労講座を実施。

○認知機能検査結果（第 4 期・第 5 期）

認知機能リハビリテーション前後における認知機能について、Brief Assessment of Cognition in Schizophrenia(BACS)日本語版にて、検査を実施。

なお、z-score は兼田康宏氏らが作成した BACS-J のデータを参考に、各年代の健常者平均値を 0 として、デイ・ケア利用者の検査結果を z-score 化し、リハビリテーション施行前後を比較することで認知機能リハビリテーションの効果を検討している。

＜第 4 期＞

結果 認知機能リハ前後の個別の認知機能の比較

	BACS- J（数値は年齢階級別 Z-score）											
	言語性記憶		ワーキングメモリ		運動機能		言語流暢性		注意と処理速度		遂行機能	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
21歳・女性	-1.11	-1.11	-0.56	-1.08	-1.50	0.07	-0.74	0.01	-1.63	-1.27	-1.27	-1.27
22歳・男性	-0.25	0.62	-0.82	-1.08	-1.50	-0.28	-0.74	-0.85	-0.83	-0.33	-1.27	-0.82
23歳・男性	-2.84	-1.60	0.21	-1.33	-1.67	-1.15	-0.10	0.11	-1.05	-1.05	-0.36	0.09
33歳・男性	-1.45	1.33	-1.64	-1.64	-1.77	-1.36	-1.56	-2.20	-1.86	-0.59	-2.32	-0.05
33歳・女性	-0.84	-0.36	1.42	0.03	-1.36	-1.98	0.53	-0.02	-1.05	-0.86	0.41	1.32
34歳・男性	0.12	0.24	0.03	0.31	-1.36	-0.33	-0.75	-0.47	-0.86	-0.41	-0.05	1.77
41歳・男性	-1.13	0.31	-0.29	1.14	-2.27	-1.17	-0.48	-0.31	-2.06	-0.87	0.75	0.75
47歳・男性	-1.47	0.31	-1.71	-1.71	-2.73	-2.89	-0.31	0.19	-1.70	-1.70	-1.04	0.04

改善　低下　変化なし

＜第５期＞

結果 認知機能リハ前後の個別の認知機能の比較

	BACS- J（数値は年齢階級別 Z-score）											
	言語性記憶		ワーキングメモリ		運動機能		言語流暢性		注意と処理速度		遂行機能	
	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
30歳・女性	0.12	-0.24	-1.92	-2.19	-3.01	-4.25	-1.20	-0.93	-1.41	-2.31	0.86	0.86
33歳・男性	-0.12	0.84	-1.08	-0.53	-0.74	-0.54	-0.84	-1.20	-1.05	-0.50	-0.50	-0.05
35歳・女性	0.72	1.20	1.14	1.69	-0.95	-0.54	0.44	0.62	0.04	-0.32	0.41	1.32
54歳・男性	1.60	0.45	1.71	1.22	-1.59	-2.56	-0.13	0.15	-1.23	-1.05	-0.73	0.27

改善　　低下　　変化なし

＜デイ・ケア利用者状況＞

デイ・ケア利用者状況（平成24年度～26年度）

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
申込者	14名	12名	17名	14名	10名
修了者	8名	8名	11名	9名	6名
平均年齢	36.2歳	37.5歳	35.9歳	32.4歳	37.1歳
一般就労	1名	1名	3名	1名	2名
A型利用	2名	3名	3名	4名	1名
就職活動中	0名	3名	0名	1名	0名
生活支援	1名	0名	2名	1名	3名
デイ・ケア継続	2名	0名	0名	3名	0名
支援終了	3名	1名	3名	0名	0名

（２）デイ・ケア修了生の集い・就労ミーティング

デイ・ケアの修了者を対象に、生活支援・就労支援を目的にミーティングを実施(修了生の集い：デイ・ケア修了～6ヶ月、就労ミーティング：デイ・ケア修了～)。デイ・ケア終了後の生活や自身の体調等を振り返る。また就労について話し合いながら、働くことへの意識を持ってもらう。

期日	内容	参加人数
第3期生 H26.4.2　～ H26.9.17 第4期生 H26.10.1　～ H27.3.18	●デイ・ケア修了生の集い 第1・3水曜に実施(10:00～11:00) 　自身の生活や体調等の振り返り、就労について話し合いを実施。	第3期 延23人 第4期 延46人

期日	内容	参加人数
H26.4.16　～ H27.3.18	●就労ミーティング 第3水曜に実施(11:00～12:00) 　修了者全員を対象に、就労・就労継続についての話し合いを実施。	延44人

（３）精神障がい者就労支援講演会（再掲）

期日	内容	講師	参加人数
H26.11.19	講演「精神障がいのある方の就労・就労継続していくために」	Office夢風舎 　土屋　徹 氏	146人

（４）　精神障がい者就労支援ネットワーク連絡会（再掲）

当センターで実施する精神障がい者の就労支援に係る事業の推進を図り、また、関係機関との連携による精神障がい者の就労支援の促進を図ることを目的として実施している。

期日	内容	委員
H26.7.23	○こころの健康センター就労準備デイ・ケア報告 ○意見交換	9人
H27.3.4	○こころの健康センター就労準備デイ・ケア報告 ○意見交換	9人

（５）ピアサポート相談

精神障がい者の社会復帰の促進を図ることを目的として、精神疾患や障がい等の経験を通してピアサポートを行うためのピアサポーターを平成２４年９月から４名雇用し、相談対応等を行っている。

１）相談件数

性別	相談延件数	実人数
男	82	19
女	105	20
計	187	39

２）講話等

期日	内容	参加者数
H26.5.30	精神保健福祉担当者研修会 「体験談」	65 名
H26.6.6	平成 26 年度第 1 回ピアサポートの集い 「円滑なピアサポートに向けて～アサーションを一緒に考えよう～」	11 名
H26.6.13	熊本保健科学大学 リハビリテーション学科　生活機能療法学 3 年 「精神機能作業療法Ⅲ」 講義「セルフヘルプグループとリカバリー」	40 名
H26.7.23	精神保健福祉ボランティア修了生の集い 第 2 回 「リカバリーについて」	15 名
H26.8.4	平成 26 年度熊本市精神障がいピアサポート講座 第 2 回 ピアサポートの実践報告とピアへの思い 「こころの健康センターにおけるピアサポート活動」	19 名
H26.8.6	平成 26 年度思春期精神保健福祉研修会 体験談発表「発達障がいの当事者の立場から」	210 名
H26.11.7	平成 26 年度熊本市精神保健福祉ボランティア養成講座　第 5 回 「障がい者とともに生きる地域づくり～当事者の声をきこう～」	9 名
H26.11.14	平成 26 年度第 2 回ピアサポートの集い 報告「精神障がいピアサポート専門員養成研修参加報告」 「ピアサポートに必要なコミュニケーションスキルについて」	15 名
H27.3.9	平成 26 年度第 3 回ピアサポートの集い 「ピア自身の力を信じるピアサポート」 「コミュニケーションツールとしてのアドバイス」	16 名

９　ひきこもり対策推進事業

ひきこもりの相談対応等は当センターで行ってきたところであるが、さらなる支援の充実をはかるために、平成 26 年 10 月よりひきこもり地域支援センターを設置し、新たな体制でひきこもり支援を行っている。

（１）ひきこもり支援センター　「りんく」

平成 26 年 10 月より、熊本市にお住まいのひきこもり状態にある本人及びその家族等の第一次相談窓口として、ひきこもり対策推進事業における「ひきこもり地域支援センター」として、ひきこもり支援センター「りんく」を設置した。実施主体は熊本市であるが、事業運営については NPO 法人に委託を行っている。

（２）センター概要

開所日：平日　8：30～17：15
場所：熊本県熊本市中央区大江 5 丁目 1 番 1 号
　　熊本市総合保健福祉センター（ウェルパルくまもと）3 階
対象者：熊本市内在住のひきこもり状態の方及びその家族等
スタッフ：専属 2 名（精神保健福祉士、臨床心理士）
　　非常勤 8 名（精神保健福祉士、臨床心理士等）交代で勤務
運営主体：ＮＰＯ法人お～さぁ

（３）事業内容

１）　相談事業

来所、電話、メール等で相談対応をしている。必要に応じて訪問を行っている。

（ア）電話相談

		10 代	20 代	30 代	40 代以上	年齢不詳	計
実	男	37	30	17	17	23	124
	女	12	12	15	10	8	57
継続	男	23	48	17	23	4	115
	女	5	14	4	4	1	28
計		77	104	53	54	36	324

		10 代	20 代	30 代	40 代以上	年齢不詳	計
男	本人	3	21	6	3	8	41
	本人以外	57	57	28	37	19	198
女	本人	2	4	5	8	1	20
	本人以外	15	22	14	6	8	65
計		77	104	53	54	36	324

（イ）メール相談（インターネット、携帯電話）

		10 代	20 代	30 代	40 代以上	年齢不詳	計
実	男	2	2	1	1		6
	女	2		1			3
継続	男	11	11	1			23
	女	14	14	5			33
計		29	27	8	1		65

		10 代	20 代	30 代	40 代以上	年齢不詳	計
男	本人	2	3	1			6
	本人以外	11	10	1	1		23
女	本人		14	6			20
	本人以外	16					16
計		29	27	8	1		65

（ウ）来所相談

		10 代	20 代	30 代	40 代以上	年齢不詳	計
実	男	19	25	20	9	2	75
	女	8	10	9	2	1	30
継続	男	18	40	17	8	1	84
	女	14	30	14	8		66
計		59	105	60	27	4	255

		10 代	20 代	30 代	40 代以上	年齢不詳	計
男	本人	7	33	18	6	1	65
	本人以外	30	32	19	11	2	94
女	本人	10	27	12	8		57
	本人以外	12	13	11	2	1	39
計		59	105	60	27	4	255

（エ）訪問相談

		10 代	20 代	30 代	40 代以上	年齢不詳	計
実	男	3	3	2	2		10
	女						
継続	男	9		5	9		23
	女						
計		12	3	7	11		33

		10代	20代	30代	40代以上	年齢不詳	計
男	本人	11	3	6	3		23
	本人以外	1		1	8		10
女	本人						
	本人以外						
計		12	3	7	11		33

２）関係機関との連携

（ア）ひきこもり支援機関連絡協議会

ひきこもり状態にある本人及びその家族が切れ目なく適切な支援や情報等と継続的につながることができるよう、官民協働による重層的かつ横断的なネットワークを構築することを目的に実施している。（年２回開催）

期日	内容	参加機関数	参加人数
H26.11.26	センター概要説明、事業計画説明、事業実績報告、集団プログラム及び講演会・研修会説明、意見交換	36	41人
H27.2.23	大学におけるひきこもり学生への支援の現状と課題、全体協議、意見交換	31	37人

３）普及啓発

（ア）リーフレット作成・配布

「ひきこもり　ひとりで悩まないで」、「熊本市ひきこもり支援センター　りんく」を作成し配布している。

（イ）講演会

市民・支援者向けに「ひきこもり」に関する理解を深めるため、講演会を開催している。

期日	内容	講師	参加人数
H27.3.1	講話「子ども・若者の精神医学」	熊本学園大学 教授　下地　明友 氏	67人

（ウ）研修会

市民・支援者向けに「ひきこもり」に関する理解を深め、対応について学ぶため、研修会を開催している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.11.28	ひきこもりからの自立	ひきこもり経験者２名	47 人
H26.12.19	不登校・ひきこもりの生活支援	こども L.E.C.センター 副主任児童指導員　松本　祐一郎氏	24 人
H27.1.30	不登校・ひきこもり生徒との関わり	スクールソーシャルワーカー 黒田　信子 氏	16 人
H27.2.27	発達障がい支援の実際	熊本市発達障がい者支援センターみなわ 所長　　長濵　朋二 氏	30 人
H27.3.11	不登校・ひきこもり経験者と働くこと	熊本県中小企業家同友会 副代表理事　　吉田　周生 氏	31 人

４）ひきこもりサポーター養成

ひきこもり状態の本人や家族等への支援に関心のある方をサポーターとして養成する。

（ア）一般向け　ひきこもりサポーター研修及び分科会

家族や一般の方を対象に、全 4 回の研修を実施している。全て出席するとサポーターとして認定している。また、研修受講者を対象に、さらに知識や理解を深めてもらうため、選択式の研修分科会を実施している。

(研修会)

期日	内容	講師	参加人数
H27.1.14	ひきこもり支援センターの活動状況 アサーション・トレーニング	「りんく」職員	実 12 人 認定者 11 人
H27.1.15	サポーターの心構えと準備 サポーターのメンタルケア		
H27.1.16	親の体験から語るサポーターの姿勢 家族及び本人のロールプレイ		
	本人及び家族への傾聴訓練とひきこもり疑似体験ワーク 研修全体の振り返り、ひきこもりサポーター認定書発行		

（研修分科会）

期日	内容	講師	参加人数
H27.1.16	うつ病、統合失調症、心身症発達障がい等の理解	くまもと青明病院　医師 井形　るり子 氏	11 人
H27.1.19	「成功・失敗事例」、「長期困難事例」の対応ロールプレイ	「りんく」職員	6 人
	アサーション・トレーニング・ワーク	「りんく」職員	2 人
	中間的就労で働くこと	ひきこもり経験者	5 人

（イ）ピアサポーター養成研修

ひきこもり状態の本人を対象に、4 回の研修を実施している。4 回の研修を 5 クール開催し、全クールを通じて、4 回を受講するとサポーターとして認定している。

期日	内容	講師	参加人数
H26.11.7～ H26.11.28	①オリエンテーション、体験発表の練習 ②居場所・社会参加への付き添い方	「りんく」職員	実 8 人
H26.12.5～ H26.12.19	③当事者へのピアカウンセリングの仕方 ④まとめ、ピアサポートプラン作成、ピアサポーター認定書発行		認定者 3 人
H27.1.9～ H27.1.30			
H27.2.6～ H27.2.27	①～④の全 4 回を 5 クール実施。		
H27.3.4～ H27.3.13			

５）その他のひきこもり対策推進事業

（ア）ひきこもり家族教室

同じ悩みを抱えた家族同士が自由な雰囲気で話し合い、当事者への理解を深める場として家族教室を実施している。（月 1 回　13:30～15:30）

平成 26 年度実績　　参加者実人数 20 人　のべ人数 45 人

期日	内容	講師	参加人数
H26.10.8	ひきこもりとは 定義、タイプ分類、回復について	「りんく」職員	10 人
H26.11.12	気持ちの感じ取り方、表現の仕方のグループワーク 家族関係の回復過程、ポジティブなコミュニケーションの方法、事例を通してロールプレイ	「りんく」職員	5 人

H26.12.10	本人の気持ちの理解 　ひきこもり経験者 2 名の体験談、フリートーク	「りんく」職員	6 人
H27.1.14	利用できるサービス 　熊本市内の利用できる福祉サービスの紹介、フリートーク	「りんく」職員	8 人
H27.2.4	家族の気持ち 　ひきこもり経験者の親から体験談、フリートーク	「りんく」職員	9 人
H27.3.11	座談会 　情報交換、子ども近況報告等	「りんく」職員	7 人

（イ）ひきこもり当事者プログラム

ひきこもり状態の方が安心して過ごせる場として、交流や社会性向上を目的に各種活動を実施している。（週 2 回　14:00～15:30）

期日	内容	講師	参加人数
H26.10.21 ～ H27.3.31 全 44 回	オリエンテーション DVD 観賞 創作活動 表現プログラム 運動 茶話会 読書会 調理 外出プログラム フォーカシング　　等	「りんく」職員	実 14 人 延 131 人

（ウ）　組織育成支援

親の会主催の会議出席や当事者による自助グループ育成支援等を行う。平成 26 年度は親の会に年 4 回参加している。

１０　調査研究

地域精神保健福祉活動の推進及び精神障がい者の社会復帰の支援に資するために、専門的立場から調査研究を行っている。

（１）文部科学省　科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

「精神障がい者への就労現場で使用可能な評価法の開発と基礎的資料の整備」

「精神障害をもつ人を対象とした就労場面における社会的スキル尺度および認知機能尺度の開発」

研究協力　熊本市こころの健康センター　就労準備デイ・ケア

研究要旨

平成 30 年 4 月をめどに、企業における雇用義務の対象が精神障がい者まで範囲を拡大する見通しである。障がいをもつ人の雇用状況は大きく変化する。その中で、就労支援をのぞむ当事者のニーズの高まりが予想され、その効果検討を行うための評価法が必要となる。しかし、要素的認知機能と社会的認知については、統制された実験空間ないし検査場面で利用可能な評価法はあるものの、地域の支援機関や企業で利用可能な質問紙形式の評価法はなく、地域で就労支援を展開する中では、簡易な質問紙形式の評価法のニーズが高まることが予想される。

当センターの就労準備デイ・ケア利用者を対象に、研究目的と調査内容についての説明を行い、協力同意を得た。調査→再調査（3 ヵ月後）→アウトカム調査（12 ヶ月後）を行い、個人情報を特定できない形式でのデータ提供を行い、研究に協力している。

（２）「就労準備デイ・ケアについて　認知機能リハビリテーションの効果検討」

研究者　熊本市こころの健康センター　　吉住　崇

研究要旨

国立精神・神経医療研究センターの研究事業に協力する形で開始した、認知機能リハと個別就労支援の複合による就労支援を行う就労準備デイ・ケアについては、研究事業は終了したが、その研究報告として支援モデルに一定の効果が認められ、本市においても継続して支援モデルを活用した支援を行いながら効果検討を行っている。

平成 24 年度開始時から平成 26 年度までのデイ・ケア利用者に対して、認知

機能リハビリテーション(①PC ソフトを使用したトレーニング、②振り返りや仕事・生活との関連を考えるグループミーティング)を 3 ヶ月間実施し、BACS-J にて認知機能リハ前後の認知機能を評価した結果をまとめた。対象者（認知機能リハビリテーションプログラム修了者）は 37 名であるが、結果は全体的に改善傾向であった。

また、37 名中の 8 名が一般就労（復職含む）につながり、そのうち 7 名が 6 ヶ月以上継続した。また、福祉的就労を含めると 21 名が就労へとつながった。

熊本市こころの健康センター 就労準備デイ・ケアについて

熊本市こころの健康センター

就労準備デイ・ケア

＜目的＞

統合失調症の方に対し、*医学的な基盤に立つリハビリテーションプログラムを実施*することにより、一般就労（パートも含む）への促進を図る。

対 象 者：統合失調症により通院中の方で、一般就労を希望する方（主治医の紹介状が必要）
利用日時：毎週火曜・木曜　9：00～12：00
利用期間：6ヶ月（4月・10月に開始）
更新あり　最長1年まで利用可
利 用 料：有料

就労準備デイ・ケアの特徴

- ➢認知機能リハビリテーション
- ➢就労支援

「認知機能」は働くうえで必要かつ重要な機能。
統合失調症では認知機能の障害がみられる。

近年、認知機能の改善に焦点を当てた治療の重要性が認識されてきている。

また、就労支援に認知機能リハビリテーションを組み合わせることで、就労への効果がみられる。

認知機能リハビリテーション

当センターでは・・・

① PCソフトCOGPACK（コグパック）日本語版を使用した認知機能改善トレーニング
⇒毎週2回、約60分実施（全24回）

※COGPACK日本語版は国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所が開発中であり、研究事業に参加することを条件に使用許可を受けている。

② 課題を通し、自己の特徴の振り返りや、仕事・生活とのブリッジングを行う「言語グループ」
⇒毎週1回、約90分実施（全12回）

認知機能リハは約3ヶ月間集中的に実施

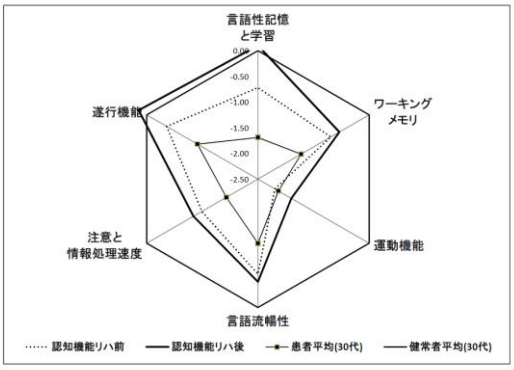
認知機能の検査

「統合失調症認知機能簡易評価尺度日本語版（以下BACS-J）」を使用。

6つの検査で構成。所要時間は30分程度

- ・言語性記憶・・・「言語性記憶」
- ・数字順列課題・・・「ワーキングメモリ」
- ・トークン運動課題・・・「運動機能」
- ・意味流暢性、文字流暢性・・・「言語流暢性」
- ・符号課題・・・「注意と処理速度」
- ・ロンドン等検査・・・「遂行機能」

認知機能リハビリテーション前後の認知機能の比較（第1～5期）



※認知機能リハプログラム終了者37名の全体平均

デイ・ケア利用者状況（平成24年度～26年度）

	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期
申込者	14名	12名	17名	14名	10名
修了者	8名	8名	11名	9名	6名
平均年齢	36.2歳	37.5歳	35.9歳	32.4歳	37.1歳
一般就労	1名	1名	3名	1名	2名
A型利用	2名	3名	3名	4名	1名
就職活動中	0名	3名	0名	1名	0名
生活支援	1名	0名	2名	1名	3名
デイ・ケア継続	2名	0名	0名	3名	0名
支援終了	3名	1名	3名	0名	0名

１１　自立支援医療費（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定

当センターでは、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律に基づき、自立支援医療（精神通院医療）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の申請に対する判定業務を行っている。

（１）自立支援医療費（精神通院）

年度	申請件数	承認	不承認	受給者数
H24	4,131	4,129	2	10,470
H25	8,205	8,201	4	11,086
H26	5,542	5,534	8	12,154

（２）精神障害者保健福祉手帳

１）診断書による申請件数

年度	新規申請	更新申請	等級変更	計
H24	535	1,146	21	1,702
H25	625	1,244	21	1,890
H26	613	1,329	22	1,964

※取り下げを除く。

２）診断書による申請の判定結果

年度	１級	２級	３級	保留	不承認	計
H24	263	1,177	201	22	39	1,702
H25	275	1,212	353	27	23	1,890
H26	279	1,221	401	24	39	1,964

※保留については、最終的に１～３級若しくは不承認と認定されている。

３）年金証書による申請件数

年度	新規申請	更新申請	等級変更	計
H24	147	1,505	11	1,663
H25	174	1,532	15	1,721
H26	207	1,727	12	1,946

※取り下げを除く。

４）年金証書による申請の認定件数

年度	１級	２級	３級	保留	不承認	計
H24	334	1,206	110	0	13	1,663
H25	323	1,243	126	5	24	1,721
H26	326	1,439	146	9	26	1,946

※保留については、年金事務所等の照会先からの回答が、設定した期限に間に合わない場合等を含む。

５）精神障害者保健福祉手帳所持者数

年度	１級	２級	３級	計
H24	1,120	4,512	606	6,238
H25	1,186	4,973	829	6,988
H26	1,171	5,207	1,039	7,417

１２　精神医療審査会の審査に関する事務

当センターでは、精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律に基づき、精神医療審査会の開催事務、審査遂行上必要な調査及びその他審査会の運営に関する事務を行っている。

（１）定期等の報告

年度	措置定期	医保定期	医保入院	計
H24	30	910	1,773	2,713
H25	27	893	1,775	2,695
H26	30	839	2,034	2,903

（２）退院等請求（請求件数、審査結果の内訳）

年度	退院請求			処遇改善請求		
	審査件数	取り下げ・終了	計	審査件数	取り下げ・終了	計
H24	18	10	28	4	2	6
H25	13	22	35	6	5	11
H26	25	10	35	3	3	6

年度	退院請求				処遇改善請求		
	入院不可	形態変更	入院継続	計	処遇適当	処遇不適	計
H24	0	0	18	18	0	4	4
H25	0	0	13	13	0	6	6
H26	0	2	23	25	0	3	3

（３）相談等件数

年度	電話相談件数	電話延件数	請求書送付件数	請求の電話受理件数
H24	121	388	47	3
H25	143	385	65	3
H26	156	447	64	1

（４）代理人・家族等による請求

年度	代理人	家族等	計
H24	1		1
H25	1		1
H26	4		4

平成 26 年度　熊本市こころの健康センター所報
平成 28 年 2 月 1 日　　発行

発行元
熊本市こころの健康センター
〒862-0971
熊本市中央区大江 5 丁目 1-1　ウェルパルくまもと 3 階
TEL:096-366-1171　FAX:096-366-1173